

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

<精神的原風景・原爆を許すまじ>

新年1月末に、とうとう新型コロナの感染者が世界で1億人を超えました。死者は210万人で、北米がいずれも最大で、感染者の44%、死者の47%を占めています。日本も急激に増加しています。新型コロナは第3波と呼ばれていますが、すでに「永続波」(permanent wave)の最中で、このままでは何回も繰り返すでしょう。ワクチン接種も始まったが、終息のメドは立っていません。何よりも先進国優先、富者優先の政策で、多くの貧しい民が取り残されたままになっており、このコロナ危機を人類が乗り越えていけるのだろうか。たいへん心配です。

このコロナ禍中であって、喜ばしいことがありました。1月23日に「核兵器禁止条約」が発効したのです。核兵器の大量保有は、今回のコロナ危機、地球環境危機、差別・分断の危機とともに、人類が抱えている大問題です。この兵器はいったんボタンが押されれば「人類絶滅」しか残されていないからです。核兵器が開発され、日本に2発投下されて以来、被爆者をはじめとした多くの人たちの悲願がやっと実ったのです。だが、核兵器保有国とその「核の傘」の下にある国々の・とりわけ被爆国日本の・「抵抗」によってゼロ(廃絶)への道はまだまだ厳しい道のりです。たしかに出発点でしかありませんが、輝かしい希望のスタートラインなのです。

年を取ったせいか、ずいぶん昔のことをふと思い出した。中学生2年生、運動会で仮装行列があり、ボクのクラスは原爆被災者の行列を行った。ポロポロの服をまとい、「ふるさとの街やかれ 身よりの骨うめし焼土(やけつち)に 今は白い花咲く ああ許すまじ原爆を 三度許すまじ原爆を われらの街に…」と、唱いながらよろよろと歩き、一周した。級長のボクが提案し、心配した

が皆賛成してくれ、終わった時には、よくぞやれたなあ、と安堵し、心から嬉しかった。ビキニ水爆実験による第五福竜丸乗組員被爆後に全国的に広まった原水爆反対運動の波は、被爆者を実際に見たこともないのに、大阪下町の若者の心にも響き、今日まで灯をともし続けてきたのです。

幼い頃、若い頃に見聞きし、学んだことは、すべてが言語化されることはないが、心に刻まれ、自分にとって忘れてはならない贈り物(=宝物)になります。それが「精神の原風景」として大事に留められ、何らかの思想内容として保持し続けられるものがあります。ボクの場合は、この原爆反対・戦争反対や、貧乏・不平等・差別はなくせ、青い空・清き川を取り戻せ、などなど。今にして思えば、ほとんどがこの若い頃に得たものだと思います。ありがたいことです。

この核兵器禁止条約発効日に、木戸季市さん(日本原爆被害者協議会事務局長)は、以下のように訴えられました。「人類は今、核の危機とともに、気候変動、コロナの蔓延という危機に直面しています。昨年は、コロナ禍によって多くのことが中止や予定変更を余儀なくされました。今年もどうなるか、不明です。コロナ禍の中で、核兵器・武力は無力であり、コロナから人の命は守れません。コロナから人を守るのは、競争や分断ではなく国を超えた人の連帯だということということがはっきりしてきました。核兵器禁止条約の発効とともに、そこに希望があります。」と。

日本の政府に条約批准を訴え、「核兵器廃絶」までもに力を合わせましょう。

主宰 吉田 千秋



2021.1.23「祝 核兵器禁止条約発効」スタンディングデモ:十六銀行本店前

*この新年1月例会は、新型コロナ「緊急事態宣言」発令で休会となりました。そこで、例会記録はありませんので、皆さんから、「通信」No.150の感想や便り、新年の展望や期待などを自由に書いていただきました。多様な感想・意見が寄せられましたのでお読み下さい。この「宣言」が解除されたら例会は行います。一刻も早く、コロナの終息を願っています。

<新年の展望・期待など>

○通信150号をありがとうございました。先生の冒頭の辞や最後の川柳など、心に深く残りました。冒頭の辞には、私も全く同感。ほんとにそう思います！歌は、川柳ではありませんが、私もコロナ雑歌をいくつか作っていました。

それから、”（カフェに来ている人は）最も困っている人たちとはちょっと距離がある・・・”という先生の感想にも同感です。私も含めて”年金”がもらえていたり、「カフェ」などに出てこれる人には、コロナで生活が大きく変わっている人は、まずいません。

私の息子なども、移動ができず、撮影の仕事ができなくなっていて、孫の学資分だけは、私の年金から少し生前贈与で送ることにしました。（要求されているわけではありませんが、親ばか）

”安心”がないと、ゆとりをもって生活できませんものね。”目線を下げる”というか、生活のいろいろな事実をもっと知ることが大事というか・・・。（A・T）

○休会のお知らせありがとうございました。仕方ありませんね。有給を取って参加しようと楽しみにしていました。一人一人が正確な情報かを判断できる力をつけ、取得した情報を地球規模で考え、考えたことを行動に移すことが大切な年ではないかと感じています。私もあなたも、周りの人も大切に社会がいいなあ。（子猫）

○吉田先生あけましておめでとうございます。あんまりおめでたくないお正月ですが、元気に年を越せたので、とりあえずおめでたいでしょうか。父も元気にしています。



す。新聞を読んでは「何ということだ！」と憤慨しています。哲学カフェ「通信」に載せて頂いてありがとうございました。興味深く拝読しています！

カフェに出掛けてディスカッションしたいのですが、チビがいるのでままなりません。せめてもの抵抗で最近はTwitterでわめています☺ 今年はチビも6歳になるから少しは身軽になるかな。

菅政権はもう、保たないんじゃないかな〜と、半分期待をしながら見ています。

あんなに、首相会見が心に刺さらない総理大臣も珍しいですよ。私は安倍さんが嫌い、菅さんも嫌いですが、安倍さんはものすごく腹が立ちました。菅さんは腹も立ちません。頭に話が入ってこないんです。

でも、菅政権が破綻する時は、医療が機能しなくなったり、弱い立場の方々の命が守られなくなる時のような気がして、本当に怖いです。日本人は、そんな賭けをする程に鈍感になってしまっているのでしょうか？

新年早々、長々とすみませんでした。話のしにくい時代なのでつい。

今年もよろしく願いいたします。Peace!!
（佳織）

○コロナ感染者の急増という最悪な形で、新しい年を迎えました。この状況の中で、自分は、元の社会には戻れないな、日本国あるいは日本人が先送りしてきたいろいろな課題を、どんな形であれ解答しなければならない刻が、いよいよ迫ってきたのかなと感じました。根拠としては菅首相が年金制度、健康保険制度の見直しをチラッと言い始めたことや、みずほ銀行などが従業員を週休三日、四日にすると発表、さらにトヨタの社長が終身雇用の維持は無理ですと宣言したこと、今年度GDPマイナス5パーセント成長、来年度はもっと悪化するかもという日銀の報告などなどです。このみぞうゆうの事態に対してどのような心構えで対処していけばいいのか、人間としての質が問われている気がします。と書きましたがもっとのんびりと生きていきたいよ、キツイ努力はあまりしたくないよというのが本音です。 (たなか)

○民主主義とは？

昨秋11月、「平成デモクラシー～投票率を上げるには～」というタイトルで元犬山市長・石田芳弘氏の講演を聞いた。講演後の質問タイムで私は、「石田先生にとって民主主義とは？」と質問した。石田氏はしばらく考えて絶妙な答えを返してきた。

「民主主義は未完成交響曲だね」と。私はとてもうまい表現だと感心したが、続けて「この未完成交響曲を完成させるのは皆さんですよ」と言ってくれたら私は石田氏に大拍手を送ったであろう。

(三戸・各務原)

○昨日から雨が降り、今日は少し暖かい一日でした。バイデン大統領が就任され、イノベーションを加速させるのだなあ、と思いながらテレビを見ています。

これからどんな時代になるのか自分の生きる場所はあるのか急に心配になり、大根の皮も捨てられなくなってきんぴらにして食べたりしています。

先日テレビで韓国の映画「パラサイト 半地下の家族」を観ました。イノベーション

の先はあの世界ではないかと思えます。先人の技術を学んだらそれをベースにさらにより良いものを生み出す努力と、またそれを次の世代へ伝えることを続けることが大切なのだと思うの

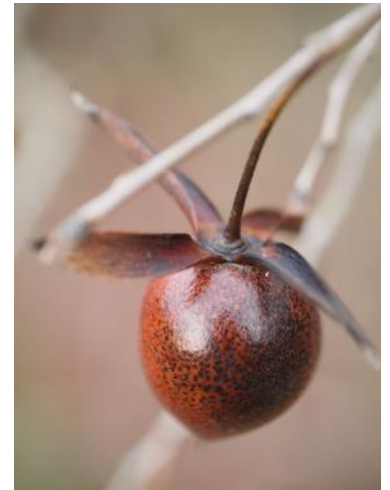
ですが、不勉強な人生を送ってきたため、何ができるのか見つけられずあたたかた・・・。高齢になってもAIがサポートしてくれるため、ボタン一つで仕事ができるからといってもポストは少ししかない・・・。

毎日、困ったなあと思案しています。正論はイノベーションだと思いますが、自分を守りたいのは本能なのでかっこいいことを言える状態ではありません。自分の事ばかり心配しています。ダメですね。自然の中で生きている生き物はどんどん絶滅しているのに。もっと自分以外の命を大切にすることを考えてみます。 (U・T)

○ この原稿を書いている時も、新型コロナウイルス収束の目処が立たない。緊張と不安と恐怖が私たちの生活を支配し、重苦しい空気感に包まれたままだ。今回のコロナ騒動は、私たち人間に、そして私たちが住む地球に色々な意味で大きな警鐘を投げかけたのではないかと。そしてまた人間の愚かさも、強さや美しさもあぶり出してくれたのではないかと思われる。

ヴィヴァン・リーチさんは、『新型コロナウイルスから人類への手紙』という詩の中で次の様に述べている。・・・(残念ながらスペースの関係で長詩は略)

コロナ禍と関わって、恐縮だが自身のことを以下に書く。私は、自分を見つめる手段として短歌を創る。朝日新聞社が毎年夏に全国公募する平和への思いを詠んだ短歌コンクール「八月の歌」に応募し、昨年度一





般・中学高校の部の十首中の一首に入選し優秀賞を頂いた。

「従軍の／看護師のごと／きみは今／ コロナ嵐に／ 白衣さらして」

フランスで平和活動に取り組む選者の歌人、美帆シボさんが次のようなコメントの評を

書いて下さった。「コロナ禍の医療従事者は、自分も家族も感染の危険にさらされ、しかも心ない人々の偏見にも耐えて、あたかも戦場に挑むかのような日々を送る」と。

かつて教員として教えた子の中には、医師としてまた看護師として医療の最前線で、日夜命を削るような思いで奮闘してしている子たちがいる。私なりの彼ら彼女らに対する熱いエールの歌だ。（堀野慎吉）

○＜危機の時代に問われる民主主義の“質”＞

大統領選挙から約3か月、アメリカの政治状況は混迷の極みだった。トランプとその信者集団は、もはや富や力を信奉するあまり、理性や知性を見失ってしまっている。それは、米国が医療技術では最先進国の一つであるのに、コロナの感染者数も死者数においても世界最多である事実と見事に一致する。まさに矛盾の塊だ。

顧みればアメリカは、自由と民主主義については、一つのモデル国だった。国の歴史は浅くとも、制度を整え、試練を重ね、世界史上で一定の進歩的役割を果たした時もあった。しかしながら今やその土台が崩れている。「ブラック・ライブズ・マター」など差別への抗議が繰り返し噴出することも、その証左の一つであろう。

自由と民主主義の原理は、一人一人の人間に対する尊厳という公理を土台としている。

人々の間にいくら利害や意見の対立・相違があっても、その公理・原理を最大限確保した上で、調整を図るのが民主社会の原則だ。だが、今そのイロハのイが未だにグラグラだ。

勿論そうした問題は、我が国でも形こそ違え大同小異の状況にある。日本では、いわゆる「お任せ」民主主義派が普通で、市民運動にも消極的、一方問題意識をもって発言する積極派は少数で「変わり者」扱い。だから民主主義に力がない。被爆国であり、原発をメルトダウンさせた稀有な経験持つものの、明確な解決策が示せない。

しかしながら、コロナはもとより地球温暖化や生態系破壊等々たくさんの地球規模の危機が迫っている。時間も余りない。でも社会は容易には変わりそうにない。では、どこに希望が？ 多分それは、民主主義の“質”を向上させることだろう。消極派を積極派が援護し、舞台に上がってもらい、市民運動を大きくする。それしかない。

（フィリピン・ウオッチャー）

○昨年はどこでもまつりが中止されてしまった。その集落にとって1年の営みの総集約の場としてのまつりが中止となり、たださえ存続させていくことがむずかしくなっている。新型コロナウイルスの発生・伝播は日本の祭りのみならず、世界の各地域にあるまつりが消えていくのだろう。残念だ。その損失は集落に何をもたらすのだろうかなど、ぼーっと思う。

まつりに行けないなら、次の関心事として“自然”について学ぼうとなった。こちらも啞然とすることばかり。考えてみればそうだね。産業革命以前の時代と比べて気温が1,2℃もあがっている。それによって生態系を形作っている生き物たちのいくつか（いな！たくさん）が絶滅してきている。それなら自然も変化する。その変化は温暖化ガスを排出し続けているヒトという生き物の生存を脅かしている。どうする？ 私はせっせと栽培活動をして二酸化炭素を植物たちに吸収してもらおうようにするよ。（尚）

〇<オリンピックのたびに思うこと>

今年は「東京オリンピック」開催予定です。最近の情勢では開催は無理だと思うが、オリンピックと言えば、私の頭に浮かぶのは「国歌＝君が代」のことです。

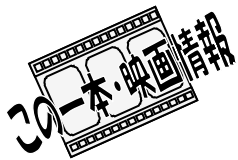
オリンピックなどスポーツイヴェントでは必ず各国選手が「嬉しそうに、誇らしく国歌を歌う姿」を見ますが、その時皆さんは違和感（我々とは違うとの感覚）を覚えますか？

こんな時に「私も喜んで誇りを持って歌える国歌が欲しい」とつくづく思うのです。とても「戦争を思い起こす

＝君が代」を歌う気にはなれません。これは我々にとって、大変不幸なことです。そこから抜け出したいと思いませんか。

「日本国民がみんなで一緒に喜んで誇りを持って歌える国歌」が欲しいとは思いませんか？ 今年「新しい国歌」をつくる運動を起こす年になったらと考えます。例えば、皆さんと一緒によく歌われる「ふるさと」を国歌にと言われる方もおられます。

最近のコロナ禍の閉そく感を打破する一助になることを確信しています。（井口）



本木克英:監督
『大コメ騒動』
2021年 日本



もう許せん、こんなこと、富山の米騒動はそんな女性たちの思いから始まった。当時、富山の貧しい漁村では、男たちは魚が取れない時期になると、北海道や樺太へ出稼ぎに出かけた。何か月間にわたるその間の生活を支えるために、女性たちは仲仕をして、米代を稼いだ。「女仲仕」（おんななかせ）と呼ばれたその仕事とは、一俵60kgの米俵を背負って船着き場まではこびだすことであった。背中がすりむけるほどのこの重労働に対する日当はわずか20銭、男性が一日に食べる白米一升がようやく買えるにすぎなかったという（ちなみに女性は8合だったとか）。

「オラの母ちゃんは、毎日朝から晩まで一生懸命働いくれとります。そんでもオラっちは、おかししか食べられん。なんでながですか？」これは米騒動を率いたひとり、松浦いとの長男・正一郎の問いである。いとたちが船着き場まで背負って運ぶその米は北海道やその他の地域へ積み出され、いとやその家族の口には入らない。そのうえシベリア出兵が決まると、コメの値段は上がり、さらなる値上がりを見越して、米問屋は売りし

ぶる。

おなかをすかせた弟や妹を前に、「おらは兵隊さんになってシベリアへいく」、と宣言する長男の声に、おとなしかったいともついに決断する。米をシベリアに送らせてはなるものか、米の積み出しを阻止すべく同じ思いの女性たちとともに浜辺に駆け付けるのだ。このあたりの描き方は汚れっぶりも含めて、実に迫力満点である。

当時は女性は政治的には無能力者とされていたから、集団で米屋に掛け合いに行っても、おとがめを受けることはない。デモをしてもおとがめを受けるのはたまたま参加した男性だけ、警察は女のすることにいちいち構っちゃおれん、というわけだ。映画の中にはそんな印象的なシーンも描かれている。ただこの時は大衆受けを狙った新聞社が大々的に報道し、それをきっかけに全国で同じような行動がおきて、寺内内閣は退陣を余儀なくされる。

コロナ禍の中で鬱屈しがちな日々の思いも吹っ飛ばすほどの、見ごたえのある映画であった。

（よねこ）



山本太郎著『疫病と人類』 朝日新書、2020年

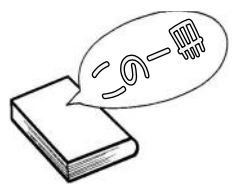
コロナ(COVID-19)の大流行の中でそれに関する新刊本がたくさん出ていた。偶然私が手にした本は上記の本。この本には動物・人でのウィルス感染症の基本的なしくみと、人類の(世界+日本)ウィルス性の病気との対応や、交易、戦争、植民地支配での伝染病の流行について歴史的な経緯が簡潔にまとめられている。抗体や免疫の発見以前にも経験的に一度罹った病には再び罹らない「二度なし現象」として理解されていたと記している。

ウィルスに その根絶を目指して強い淘汰圧をかけるとその淘汰圧そのものがウィルスに自らが生き延びるための進化を促す、人は進化したウィルスに対抗する新たな手段の開発を迫られ悪循環をくりかえす。これを赤の女王仮説(=『鏡の国のアリス』より)という。進化のスピードは人よりウィルスの方が早く、病害ウィルスの絶滅は不可能である。他方ウィルスは宿主を必要とする微生物であり宿主の死亡または根絶を黙途として動いてはいない。人は無害な内在性ウィ

ルスや人が抗体免疫を獲得したウィルスと共存している。

ウィルスとの共存社会は今後も継続される。それには多様で変化に柔軟な社会が必要であり、「そうした社会は監視的で強権的な社会では達成できない。市民のエンパワーメント(市民の力の獲得=筆者)を通じた民主的手法を通じた社会が求められる所以である。」と著者は述べている。同感である。罰金などもつてのほかのことである。

(アダム・スミス)



マーガレット・アトウッド著 鴻巣友季子訳 『獄中シェクスピア劇団』 集英社刊、2020年

最近、シェクスピアを語りなおそうという動きが有るというのを、この本の解説で知ったのだが、『獄中シェクスピア劇団』は「テンペスト」を取り上げている。

ここに、一人の演出家が居る。私など笑いころげてしまおうが、たいへん斬新な演出で、劇団員を引き回し、いろいろな雑用は“忠実な”部下にまかせて、ひたすら劇を作るのに熱中して良い気分だったのに、あろうことがその部下は周到に根回しをして彼を追い落とし、自分が彼の地位に収まってしまったではないか。失意の演出家は、プロスペローの洞窟もかくやと思われそうなボ

ロ屋を借りて鬱々とした日々を送ることになる。

しかしある日のことその彼に仕事が入ってきた。刑務所の更生プログラムの一つとしてシェクスピア劇をやるので指導してほしいと



いうのだ。殺人のような重大な罪を犯した者は一人もいないが、若いハッカー、窃盗犯、曲がった事の好きな会計士etc. 一癖も二癖も有る連中を相手に、「テンペスト」の稽古が始まる。そこで「テンペスト」についての曲者達の突込みがめちやくち面白いのだ。その突込みと主人公の解説で、「テンペスト」がどのような話か分かるという仕掛け。

<世界一周貧乏旅 その18>「パラダイス」

みなさまにとって『楽園』とはどんなところでしょう。どこまでも続く広い広い花畑、豊富な食べ物と様々なお酒がよりどりみどり、誰もがそこで微笑み、争いもいさかいもない、そこはまさに現世の苦しみから解放された浄土と言えるでしょう。

そしておそらく誰もが知っているでしょう、そんな場所はこの世に存在せず、人間は生きる限り悩み苦しみ、人と喧嘩し続けて死ぬことが決まっております。僕自身、世界を旅しながら思っていました、世界に楽園なんてものはないんだと。

タイでお酒を奢ってくれた気さくなオーストラリア人は僕のクレジットカードを盗み、マレーシアと一緒に観光したインド人は「君は日本人だからお金持ちだろう」と僕に食事代をせびり、多くの国で「チャイニーズ！」とアジア人の見た目だけで馬鹿にされ差別されました。世界規模での理不尽は日本でこのうのと生きてきた僕のキャパを軽く超えてゆき、あまりのストレスに意地悪なエジプト人の客引きに日本語で怒ったりしました。

アジアから中東、北アフリカを通り、僕はいよいよヨーロッパへとたどり着きましたが、それまでの国々で擦れてしまった僕の心はやけにささくれ立ち、当時の写真を見返しても別人のように目つきが悪くなっていました。体が小さく主張の弱いジャパニーズが身を守る簡単な方法は、眉間にシワを寄せ続けることだと学んでいたの

さて、何とかかんとか上演にこぎつけた時、劇を見学に来るとというのが、お偉方になった2人の裏切り者ではないか。復讐だ！どのように復讐を果たしたかは、読んでのお楽しみ。主人公は首尾よく、元の地位に返り咲くという精神衛生に良い結末であるのも、不愉快なことばかりの当節、ありがたい話と言えるのでは？

(YS)

で、僕は旅中ずっと眉間に力を入れていました。

そんな目つきの悪い僕はフランスに滞在中、新しい服が必要になりパリのショッピングモールへ向かいました。そこで服を選び、英語を話す女性の店員さんに会計をしてもらってそそくさと帰ろうとしました。すると彼女は「Have a nice day(いい日だね)」と、まるで嫌味のない笑顔で僕に言いました。驚きましたが、率直に、ああなんていい人なんだと嬉しくなりました。英語圏においてこれは日常的に使う別れ際のあいさつで彼女が本当に「いい人」なのかはわかりませんが、しかし荒んだ僕の心には、ああまさにここが楽園だ、と思えたのでした。

コロナ禍の昨今、人と距離を取ることが感染予防として重要とされており、触れない近づかないが推奨される世の中であります。この今の社会はどう考えても人が生活しにくい状況ではありますが、相手との距離が遠い今だからこそ、ちょっとした思いやりとそれを乗せたコミュニケーションが、僕らそれぞれの環境を少なからず『楽園』へと変えてくれるのではないのでしょうか。

(カモノハシタニ)



2020年後半 哲学カフェ、第25期の予定

例会は19:00～21:00です。

会場は、ふれあいスペースです。

第151回例会 1月14日(木)	「世の中を明るくするには何が必要か？」 *新型コロナ蔓延が「永続波」となり、ワクチンのみが明るい材料。だがどうか。 *コロナ危機で新たな変革の兆しが見えてきたが、これをどう実現するのか。	中止 しました
第152回例会 2月11日(木)	「先を進める<理論>と<予算>を問い直す？」 対 2月の例会は、残念ですが休止します。本どのように使われたのか。 影に隠れて推進される自衛隊の攻撃軍隊化。その危険な理論とムダ予算に注目。	
第153回例会 3月11日(木)	「2050年までに温室効果ガスゼロは可能なのか？」 *世界の趨勢にまったく反する政策をとってきた日本政府は、突然、ゼロ目標発表。 *これはCO2ゼロではなく、原発も含めているまやかしのもの。これでいいのか。	
第154回例会 4月8日(木)	「教育で大切なことは・・・コロナ危機を通して？」 *コロナ危機の中で、教育のあり方、内容、制度は変えざるを得ないことが生じた。 *少人数教育へ一歩踏み出したが、リモート教育の推進、管理主義、高い教育費は？	
第155回例会 5月13日(木)	未定	
第156回例会 6月10日(木)	未定	
第157回例会 13周年記念行事	7月3日(土)or 10日(日) 創立13周年記念行事 *昨年はコロナのため中止。今年は何とか開催できるように願っています。 *今年はどうのような内容にするのか、早めに意見を寄せて下さい	

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願ひします。口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!! <http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>わいわいがやがや
アラカルト

- ★2021年を迎えて、ワイワイガヤガヤみんな、「新年の抱負」を語り合いたいと思っていたのだが、コロナ禍のため今回もカフェを休止せざるを得なかったのは残念。
- ★「災い転じて福となす」。人が苦境に陥っても前向きに何とか生きながらえてきているのは、言葉の力によるものではないかと思う。
- ★新年を迎え、友人たちにメールを送ると、「コロナ以前のライフスタイルが大きく変化した。」「不要不急の自粛生活で、のんびりして、考える時間が持てるようになった。」「人間性すら回復できたような気がする」などの返事が返ってきた。
- ★しかし、今コロナ禍のために生活を脅かされている人々の数は膨大であり、一刻も猶予できない。政府・行政機関は即刻思いきった救済措置をとるべきだ、と訴えたい。いつ収束するかもわからない「新型コロナ禍」の暗闇と共に新年を迎えたのであるが、なんとか希望を持てる2021年に

なっしてほしい。

- ★「コロナ禍過ぎて福来る」なんてことはありそうもないが、敢えて、そんな偶然的幸運を頼みたい気がする。そんな時思い出す言葉は、「偶然の哲学」を彷彿とさせる、「セレンディピティー (serendipity)」である。
- ★これは、自然科学、特に実験・研究分野では大いにもてはやされている言葉であり、しばしば、「ノーベル賞」受賞のきっかけになった発明や発見が引き合いに出される。フランスのルイ・パスツールは、このような思いがけない発見を生かして大発見に導く能力も一つの才能であり、これを「セレンディピティー」と言っている。
- ★また社会・キャリア教育の分野では「一期一会」にも通ずる概念として知られている。さて、今年1年はどんな「セレンディピティー」に巡り合うのか、果報は寝て待てか？

(島田 幹夫)